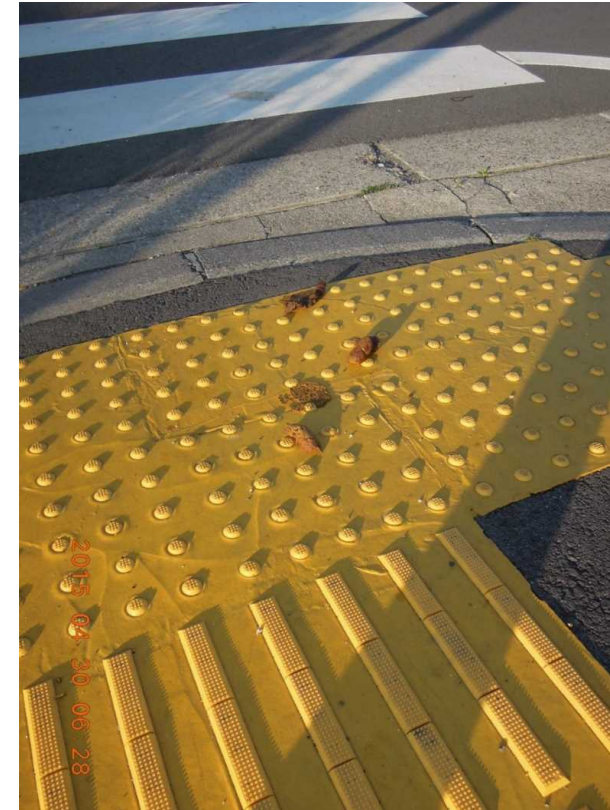


イエローチョーク作戦



1.経過

- 犬のフン害対策【従来】
 - 「イエローカード作戦」: 警告用紙を設置
 - 抜本的対策・継続的活動に至らず
 - 新たに別のより効果的な対策が必要
- 啓発看板(単価約300円)の配布・啓発の回覧
- イエローカードの配布
- 広報誌やエフエム放送での啓発
- 「わんわんクリーンキャンペーン」(11月中旬)
 - 地域によっては改善されていない場合あり



2.対策

- 改善されたとは言い難い
→より効果的かつ簡単な方法でフン害予防
- 経費削減・住民との協働の観点から必要
- イエローカード作戦：市内で多くの反響あり、一定の効果と意識啓発
→カード設置後の対処（ごみとして飛散）
- 環境に影響がなく、気軽にとれる対策
→イエローチョーク作戦を実施
- 公共の場所（道路や街路樹）に犬のフン→黄色チョークで路面に矢印：注意を促す



3. 社会実験

- 平成28年1月9日～22日：試験実施
- 宇治市広野町尖山の市道下居
大久保線（通称カムループス通り）
- 当初約30か所→約20か所に減少
矢印の先のフンが消滅
→飼い主等が回収したと思われる
- その後、平成28年7月30日（土）まで
約半年間（週3回程度）延長実施
→早朝、午前中、夕方、夜間【平日・休日】
10月末現在：約10か所前後に減少
（9月11日再開）



4. 通学路・歩道

- 通学路: 児童のフン踏み事案を誘発
→ 衛生上・精神上問題あり
- 低学年の児童: 身長が低い
→ 見える距離が短く、注意力も散漫
→ 路上のフンに気付くのが遅れる
- 道路は安全に歩行できるべき
- 常にフンに注意して歩行している【特に夜】
- 歩行者が自転車の接近に気付かない
- 自転車が路上のフンを避ける
→ 歩行者と接触 → 事故の原因



2015.04.25 07:03

5. 街路樹

- 路上のフン放置
衛生上や景観上の問題
安心して歩行できる道路機能を害する
- 街路樹の根元などにフン放置
直接歩行の障害にならない
→周辺に悪臭を放ち、ハエなどの誘引につながる：環境衛生上有害
- 樹木の肥料になるとか、歩くところではないとの反論→許容すべきではない



6.啓発看板

- 従来：啓発看板交付・忌避剤使用等
 - いたるところに看板が設置→モラルの低さを示す・景観上も問題
 - 看板が設置してあるにもかかわらず、依然としてその周辺にフン害がみられる
- 犬の習性と飼い主の無関心が原因
【同じ所に同じ時間帯に放置】



7.意思表示

- むやみに看板を交付しない→より**効果的**な方法を示す
 - チョークでフンのある方向に矢印を路面に表示し、**飼い主に回収を促す【監視】**
 - 時間を書くことで放置時間帯を特定する**
- **迷惑していることを意思表示**
 - 「もってかえって下さい」**
- 忌避剤の使用で**自衛【土の場所等】**
- **公費の削減**にもなる【住民との協働】



8. 自助努力

- 町内会や自治会に働きかける
- 通学路→スクールサポーターや保護者等と相談・イエローチョーク作戦を提案
- 自助努力を促す→フン害減少を図る
- チョークで表示するフンの対象要件
→立体的・新しいもの
- 平面的なものや乾燥しているもの
→回収効果なし(啓発効果あり)

